

## 冬期に富山湾周辺海域へ来遊したスルメイカの移動 (要旨)

Migration of Japanese Common Squid, *Todarodes pacificus*, in the Adjacent Waters of Toyama Bay, the Sea of Japan in the winter of 1992原田 恭行<sup>1)</sup>Yasuyuki HARADA<sup>1)</sup><sup>1)</sup> 富山県水産試験場 (現所属: 富山県水産漁港課)

富山湾周辺海域におけるスルメイカの回遊を明かにするために、能登半島付近、佐渡島付近及びその中間海域で標識放流を実施した。総標識個体数1265個体のうち、14個体が富山湾内、13個体が富山湾外で再捕された。再捕されたいずれの個体にも、各地点の放流個体が含まれていた。湾外では、イカは能登半島西域及び隠岐諸島 (50-230マイル) へ1カ月以内に、対馬及び九州北西岸 (430-510マイル) へ2,3カ月で到達した。富山湾では、湾外での再捕場所と比べるとはるかに近いにもかかわらず、1,2カ月を経た後にも再捕された。外套背長組成、成熟状況、及び再捕時期から、富山湾周辺海域で標識放流したイカは、湾内の重要な漁業資源である「冬季回遊成熟群」が含まれていると考えられた。

---

\* 本報告の詳細は富山県水産試験場研究報告第8号に記載